

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・最終)

安浦中学校区 校番 23 学校名 呉市立安浦中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
*** 確かな学力の向上	貫 主体的・対話的で深い学びを実現し、確かな学力の向上を図る。	①思考力・判断力・表現力を高める。	目標値を超えることはできているが、学力調査等の思考力・判断力・表現力の正答率は高いとは言えない。ゴールを明確にした単元づくりを行い、考えを深め表現する活動を授業に位置づけていく必要がある。	パフォーマンス課題を設定した単元づくりと根拠に基づいて自分の考えを持ち、自らの考えを広げ深める「学び合い」を位置づけた授業研究を進めていく。
		②学びの基礎・基本を定着させる。	目標達成という評価であるが、自主的な家庭学習の充実にはまだまだ課題も多い。多くの生徒が宿題等を提出しているが、答を書き写すだけの生徒もいて、学習内容を理解するために自主的に取り組んでいない生徒も見られる。	提出物を出さない生徒が固定化しているという課題もあり、教科担、担任からの根気強い声掛けを今後とも行う。課題に対する粘り強い取組の面と、自己調整する面とを的確に評価し、自ら、学力の伸長を図れる生徒の育成を目指す。
** 豊かな心の育成	貫 感謝と貢献の心を持ち、協働して取り組むことのできる心を育む。	③仲間や学校、地域への感謝・貢献の心を育てる。	生徒アンケートでは、「自分が住んでいる地域が好き」という問いに対し95%の生徒が肯定的な回答をしている。昨年3年ぶりに実施した「みちクリーン活動」でも生徒の感想は概ね良好で、地域の一員として活動していきたいという意欲を高めていた。今年も計画中である。	ふるさと学習を継続して行うとともに、「みちクリーン活動」以外にも地域の行事などへボランティア参加するよう促していきたい。
		④教育活動全体を通して礼節と規範意識を醸成する。	生徒アンケートで「自分にはよいところがある」との問いに肯定的な回答をしている生徒は81.4%で、「自分の良さは周りの人から認められていると思う」との問いに肯定的な回答をしている生徒は84.7%である。引き続き対応していきたい。	アンケートの分析から自尊感情の低い生徒の状況を教職員で共有し、学校生活の中で活動・活躍の場を設定し声かけや肯定的評価をするなど継続的に取り組みたい。
* 防災教育	「自分の命は自分で守る」力を育成するとともに、地域の防災に貢献する。	⑤「自分の命は自分で守る」力を育成し、保護者や地域の防災意識を高める。	マイ・タイムラインや土砂災害対応携帯マニュアルの作成を通して、自宅周辺の危険区域等を確認することができた。また、毎年実施している防災週間に併せた自衛隊の方を招いての防災講話を今年度も実施し、全学年を通して災害に対する意識を高めることができたと思う。	定期的に土砂災害対応携帯マニュアルをきちんと持参しているかチェックを行い、防災・減災に向けた呼びかけを行う。学校通信等を用いて保護者への啓発をより充実させていきたい。
* 働き方改革	業務改善を進め、働き方改革を推進する。	⑥教職員が生徒と向き合う時間を確保する。	今回、「日々の業務の中で充実感を得られている」と感じる教職員の割合は94.1%と目標値の85.0%を達成できた。しかし、生徒と向き合う時間が確保されていると答えた教員は46.7%と昨年度よりも大きく下回っている。全ての教員が時間を工夫し確保に努めており、タイムマネジメントへの意識は高くなっている。ただ、昨年度も同様であるが、現在の状況を見ていくと、ほぼ全ての教員に言えるが授業時間数が多く、勤務時間内に空き時間が少ないなど時間の確保が難しい状況にある。そのような中で各教員が工夫し業務に取り組んでいる。	授業の持ち時間数や指導内容の難しさは学年によって違い、負担を感じる事務処理等も、担当や個々の感じ方によって異なる。子どもたち一人一人に寄り添う意欲と時間を確保することは、子どもたちのより良い成長にとっても大事である。全教職員がこれまでも取り組んできたように、今後も自分自身の作業や仕事の見直しをさらに行い、効率化を図る。また、学校全体においても、各行事の取り組み方の工夫、各種会議の効率化、校内研修の改善、部活指導の工夫など取り組んでいく。
		⑦長時間労働を削減する。	今回の教職員アンケート「退校時間を決めて計画的に業務を行っています。」の肯定的な回答は70.5%であった。昨年度より10.5%伸びている。本年度の在校時間45時間以内の状況は、4月47.3%、5月52.6%、6月47.3%、7月57.8%、8月94.7%、9月47.0%であった。昨年度後半に比べると、9月以外すべての月で伸びている。昨年度より、各自が毎日退校時間を設定し、ボードに名前を貼り見える化などの取組や、声掛けなど大きな要因と考える。	昨年度の結果分析より、一人ひとりが毎日決められた退校時刻に退校できるようにタイムマネジメントを意識継続し、さらに仕事の効率を高める。また、学校全体では本年度よりコロナの制限もとれ各種行事も行われるので、行事内容の工夫・改善、部活休養日の確実な実施とともに、部活指導のさらなる工夫を図る。時間外勤務が45時間を越えている教職員については、長時間勤務が生じる要因と改善策を本人だけでなく、学年及び分掌等で整理し全職員で支え取り組んでいく。